

平成23年度決算と専決処分

全会一致で認定

平成23年度決算は、歳入については、資源物売払い収入が前年と比較して5トン増えながら収入においては前年比98・3%と減額となったのは金属価格の値下がりによるものであります。引き続き分別収集にご協力をお願いします。

歳出では、ごみ処理施設設備の劣化、性能低下に対応するため、長寿命化計画を策定し、炉の改修工事が現在進行中であります。また、し尿処理場においても、精密機能検査を実施し施設の老朽化等を調査した。

病院議会

下仁田南牧医療事務組合議会では、平成23年度に着工した下仁田厚生病院の改築工事の進捗状況について、節目節目において工事現場の視察見学を行い、その進行状況を確認してきております。

1期工事については、平成24年10月下旬をもって躯体コンクリート工事を終了し、同時進行で1階フロアから内装工事を順次進めている状況です。病院議員も8月27日には病室のモデルルーム（モックアップルーム）を見学し、完成後の仕上がり予定状況等を確認しました（写真①参照）。

また、10月22日には、内装工事

や、設備、電気工事についても工事状況を確認しました。

工事は、概ね計画通りに推移しており、3月中旬から下旬にかけて一旦全部門の引越しを行なう予定とのことです。その後現在の病棟を取り壊し、駐車場等の整備を行い、遅くとも平成26年2月にはすべての工事が終了する予定を確認しています。



モデルルーム見学

総務常任委員会行政視察報告

総務常任委員会は、10月4日（木）5日（金）にかけて視察研修を行いました。

まず石川県羽咋市、羽咋市の限界集落からの脱却・地域再生について説明がありました。

神子原地区は寒暖の差が激しく

雪解け水の清流と美しい棚田によって育てられ、化学肥料に頼らず無農薬で育てられた、美味しいこだわりのお米がとれるということです。

高齢者が多かった神子原地区も、神子原米のブランド化を成功させた高野氏に憧れて来る若者や、Uターン・Iターンで移住して来る家族で高齢化率は47・5%に改善、空き農地や空き家の利用、大学生を中心にした若者が集落合宿したりと活性化し、若い入植者が新しい農法を取り入れた米作りも実践中だそうです。また、土づくりでは「資材投入すると土が死ぬ、農薬・肥料を使わず、バクテリアを育てる」を実践、現在は「腐らずに枯れる野菜・穀類・果実（水に沈むトマト）等の作付と誘客」を図っているとのことです。

翌日は津幡町の視察を行いました。

検討は平成18年度から、試行スケジュールは平成23年10月から25年3月まで周知・試行期間で操作等の研修会は石川県が開催する研修会へ参加を指導して町独自の研修会は開催していないとのことでした。電子入札のシステム形態としては、石川県の共同システム、運用経費については平成24年度予算で1,600千円ほど、平成23年度の入札実績については建

設工事のみで、従来型入札は119件、電子入札は12件だそうです。電子入札導入にあたっての地元業者等の反応は、建設工事では、土木工事業者は早期の導入希望者が多く利用者登録等の対応は早かったが、電気・管工・建築等の他業種については、小規模事業者は対応しきれていない。また、電子入札により入札価格が下がるとは考えていないとのことでした。



(羽咋市 神子原地区)

甘楽・多野地域町村議会交流会

10月17日、神流町コイコイアイランド会館において開催されました。始めに、秩父太平洋セメント叶山鉱業所社員から工場の概要説明を受けた後、採掘現場の山頂に向かいました。現場は、一面石灰岩に覆われ、良質な部分を採掘しているとの事ですが、広さと掘削機

械の大きさには、圧倒されました。また、大きな石灰岩の塊を破碎機にかけ、運搬専用のトンネルを利用し、ベルトコンベアで秩父までの23キロの長距離を輸送しているとの事でした。



(神流町 叶山)

群馬県町村議会議員研修会

10月24日吉岡町文化センターにおいて、江藤俊昭氏の「住民自治の根幹としての議会」を創造するという演題で、また、片田敏孝氏の「想定を超える災害にどう備えるか」穂がし日本だ」という演題で講演を受けました。